安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	カネビニールペースト　PCH-72
整理番号	PC-03
会社名	株式会社カネカ
住所	大阪市北区中之島 2-3-18
担当部門	Vinyls and Chlor-Alkali Solutions Vehicle R2B･Technology グループ、Technology チーム
担当者	Technology チームリーダー
電話番号	06-6226-5356
最新 SDS URL	https://www.pvc.kaneka.co.jp/index.html
E-mail	kasei-hinshitsu@kaneka.co.jp
緊急連絡先	株式会社カネカ 高砂工業所 合成樹脂製造部
電話番号	079-445-2043
緊急連絡先	株式会社カネカ 鹿島工場 塩化ビニール課
電話番号	0299-96-7421
推奨用途	建材用途（壁紙、床材等）、自動車関連（自動車部品、自動車アンダーボディコート等）、その他（手袋、字消し、帆布、レザー製品、玩具等）
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は、化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	分類できない、又は、区分に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	区分に該当しない

	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分1B
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性　長期（慢性）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語	危険
危険有害性情報	発がんのおそれ
注 意 書 き	
安全対策（予防策）	すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡を着用すること。
応急措置（対応策）	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
廃棄	内容物／容器を、国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

重要な微候及び想定される非常事態の概要

吸入による呼吸器の刺激や、長期又は反復ばく露による軽度の呼吸器障害の可能性がある。

---

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	塩化ビニル･酢酸ビニル共重合物

(Vinyl Chloride – Vinyl Acetate Copolymer)

慣用名又は別名　塩化ビニル・酢酸ビニルコポリマー

化学式　$(CH_2\text{-}CHCl)_n(CH_2\text{-}CHOCOCH_3)_m$

成分及び濃度又は濃度範囲

化学名又は一般名	濃度範囲	官報公示整理番号		CAS No.
		化審法	安衛法	
塩化ビニル･酢酸ビニル共重合物	97%　以上	(6)-76	既存物質	9003-22-9
酢酸ビニル(未反応物)	0.1～0.3%	(2)-728	既存物質	108-05-4
重合添加剤(残留物)	3%　以下	非公開	非公開	非公開

GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物

上記以外は該当なし。

4. 応急措置

吸入した場合　空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分が悪いときは、医師に連絡、必要に応じて手当てを受ける。

皮膚に付着した場合　多量の水と石鹸で洗う。
必要に応じて、医師の診察を受ける。

眼に入った場合　直ちに清浄な水で 15 分間以上洗眼する。必要に応じて、医師の診察を受ける。
コンタクトレンズを使用の場合、容易に外せる場合は、取り除いて洗浄する。

飲み込んだ場合　多量に飲み込んだ場合は、口を水ですすぎ、医師の手当てを受ける。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入による呼吸器の刺激や、長期又は反復ばく露による軽度の呼吸器障害の可能性がある。

応急措置をする者の保護

救助者は、保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水、粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	燃焼時に刺激性のある塩化水素ガスが発生する。
特有の消火方法	火災発生場所の周辺に、関係者以外の立入を禁止する。消火作業は、風上から行う。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、状況に応じた保護具(耐熱手袋、ゴーグル型保護眼鏡、空気呼吸器、等)を必ず着用する。
燃焼により有毒ガス(塩化水素)が生成する為、呼吸用保護具を必ず着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入を禁止する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
作業の際には、保護手袋、保護眼鏡、防じんマスクを着用し、粉じんを吸入しないようにする。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

飛散物をかき集めて空容器に回収する。真空で吸い取る等、粉じんが飛散しない方法で取り除く。

二次災害の防止策

特になし

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	取り扱いは、換気の良い場所で行う。 「8.ばく露防止及び保護措置」記載の保護具を着用すること。 火気を避け、粉体の場合には静電気対策の為に、装置、機器等の接地を確実に行う。 局所排気又は全体換気の設備のある場所で取扱う。

安全取扱注意事項

みだりに粉じんが発生しないように取扱う。粉じんを吸い込まないようにする。

接触回避　「10.安定性及び反応性」を参照。

衛生対策　使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
休憩場所には、洗身シャワー、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後に手、顔等をよく洗い、うがいをすること。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料

紙袋、フレコン、サイロ

---

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度　設定されていない

濃度基準値　厚生労働大臣が定める濃度の基準

＜参考情報＞　酢酸ビニル

10ppm（8 時間濃度基準値）

15ppm（短時間濃度基準値許容濃度）

許容濃度　日本産業衛生学会（2023 年）:

第三種粉じん　2mg/m^3（吸入性粉塵）、8mg/m^3（総粉塵）

ACGIH（2017 年）

TWA 1mg/m^3（Polyvinyl chloride Respirable Fraction）

＜参考情報＞　酢酸ビニル

ACGIH（2019 年）

TWA 10ppm

STEL 15ppm

設備対策　粉じんが発生する作業場には局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具	防じんマスク
手の保護具	ゴム手袋
眼、顔面の保護具	防じん眼鏡、保護ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	長袖作業着

---

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体（粉体）
色	白
臭い	無臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	酸素指数約 45 の自己消火性樹脂である [1)]
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	391℃ [2)]
自然発火点	454℃ [2)]
分解温度	データなし
ｐＨ	データなし
動粘性率	該当しない
溶解度	水に溶解しない
ｎ－オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	真比重 1.4(20℃)
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	粒子径 数μm～数 100μm

10. 安定性及び反応性

反応性：	通常の使用条件下では、安定である。
化学的安定性：	通常の使用条件下では、安定である。
危険有害反応可能性：	通常の使用条件下では、安定である。
避けるべき条件：	火気を近づけない。
混触危険物質：	フッ化物と接触すると激しく反応する。 硫酸、硝酸、塩酸。
危険有害な分解生成物：	燃焼すると刺激性の塩化水素ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 1B
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない

＜参考情報＞　酢酸ビニルの有害性情報[3)]

急性毒性（吸入：蒸気）	区分 4
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分 1B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用、気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（呼吸器）

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性　短期（急性）	データなし
水生環境有害性　長期（慢性）	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

＜参考情報＞　酢酸ビニルの環境影響情報[3)]

水生環境有害性　短期（急性）	区分 2

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物）、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

化学品（残余廃棄物）	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従って処理を行う。廃棄を委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
汚染容器及び包装	使用済み包装容器は、内容物を完全に除去した後、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委

託する。

14.輸送上の注意

国際規制

国連番号	該当なし
品名（国連輸送名）	該当なし
国連分類	該当なし
容器等級	該当なし
海洋汚染物質（該当／非該当）	非該当
国内規制	特になし
輸送又は輸送手段に関する安全対策	直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止を行う。
緊急時応急措置指針番号	該当なし

15.適用法令

化学物質審査規制法	優先評価化学物質（酢酸ビニル）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	第 1 種指定化学物質（酢酸ビニル）
労働安全衛生法	法第 57 条第 1 項に規定される名称等を表示すべき有害物（酢酸ビニル） 法第 57 条の 2 に規定される名称等を通知すべき有害物（酢酸ビニル） 第 57 条の 3 に規定される調査対象物質（酢酸ビニル） がん原性物質＜規則第 577 条の 2 第 3 項、令和 4 年 12 月 26 日告示第 371 号、令和 4 年 12 月 26 日基発 1226 第 4 号＞（酢酸ビニル）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物
消防法	危険物に該当しない
毒劇物取締法	毒物、劇物に該当しない
船舶安全法	危険物に該当しない
航空安全法	危険物に該当しない

16.その他の情報

・引用文献

1)伊藤公正編「プラスチックデータハンドブック」工業調査会(1980), P110
2)同上, P116
3)厚生労働省　職場のあんぜんサイト
モデル SDS　／　酢酸ビニル（改訂日　2020 年 3 月 13 日）

・記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいておりますが、物理化学的性質、危険性等に関してはいかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途用法に適した安全対策を施してご利用下さい。